ふれあいネットワーク

平成27年7月

42

なんぶ 社会福祉だより

子育て総合支援センターのびのび

手遊び 歌遊び

お母さんといっしょ 楽しいな♪

南部町社会福祉協議会
本　　所　〒683-0351 法勝寺331-1　TEL0859-66-2900
会見支所　〒683-0227 浅井938　TEL0859-64-3515

平成26年度事業報告

地域福祉ネットワーク活動では、集落での福祉活動をリーダー的に推進する「地域福祉委員」全員を対象に「地域福祉委員連絡会」を4月に開催し、更に地区ごとのネットワーク化と情報交換、事業への理解を深める機会として「地区別地域福祉委員懇談会」を7地区で実施しました。また、社協が窓口となり、災害時に、集落の中で安否確認や避難誘導などの体制を整備することを目的とする、県・町の補助事業「わが町支え愛活動支援事業」では、4集落から申請があり、その取り組みに支援、協力をしました。

ボランティアセンター機能の充実を図るために、「福祉教育・ボランティア体験事業連絡会」を開催し、情報交換を行うとともに、施設や学校との連携を図りながら活動展開できるよう情報の共有化を図りました。町内の小中学校に対し「福祉教育協力校」として活動費の助成を行いながら、ペットボトルキャップ回収の呼びかけや体験授業など、学校での取り組みを支援しました。

あいのわ銀行の運営では、制度の改正に向け「運営委員会」で協議していただきました。それに伴い、2月に会員研修として、基礎的な知識や技術を身に着け、住み慣れた地域でいつまでも健康に暮らすことを支援するために地域で活動できる方の発掘・養成を目的とした「あいのわ支え合い講座」を開催し、全5回、20時間の講座で、10名の方が南部町から「4級ヘルパー」として認定されました。

平成26年度決算資金収支計算書

（自）平成26年4月1日　（至）平成27年3月31日　（単位：円）

収入		支出	
会費収入	3,350,200	人件費支出	41,147,356
寄付金収入	2,986,400	事務費支出	5,529,817
補助金収入	38,234,000	事業費支出	10,434,633
助成金収入	865,000	助成金支出	4,242,400
受託金収入	12,197,000	貸付金支出	-
事業収入	2,058,800	負担金支出	26,800
貸付事業等収入	18,000	返還金支出	288,000
共同募金配分金収入	1,397,984	その他固定資産取得支出	172,800
雑収入	1,314,353		
受取利息配分金収入	27,469		
収入合計	62,449,206	支出合計	61,841,806

平成26年度貸借対照表

（単位：円）

会計名	資産の部		負債の部	
一般会計	流動資産	100,397,505	流動負債	3,649,443
	現金	59,570	未払金	2,324,803
	預貯金	99,792,746	未返還金	288,000
	未収金	370,126	預り金	1,036,640
	仮払金	175,063		
			負債の部合計	3,649,443
	固定資産	53,141,890	純資産の部	
	基本財産	2,000,000	基本金	2,000,000
	その他の固定資産	51,141,890	その他の積立金	7,966,642
	建物	25,164,980	備品購入積立金	3,308,000
	車両運搬具	2,603,335	退職共済積立金	4,158,642
	器具及び備品	1,415,377	車両運搬具購入積立金	500,000
	償還金収入	61,000		
	備品等購入積立預金	21,897,198	次期繰越金活動収支差額	139,923,310
			純資産の部合計	149,889,952
	資産の部合計	153,539,395	負債及び純資産の部合計	153,539,395

お知らせ

南部町社会福祉協議会理事・評議員の交代（敬称省略）

所属機関の異動等にともない、本会の理事・評議員の交代がありました。

★理事

任期　平成二十七年四月一日～平成二十八年九月三十日

新　山口　俊司　健康福祉課長

旧　畠　稔明　前健康福祉課長

★評議員

任期　平成二十七年四月一日～平成二十八年八月三十一日

新　佐々木　美和　すみれこども園長

渡邉　不二子　会見第二小学校長

旧　宮倉　清美　前南部町立保育園統括園長

手嶋　千恵里　前会見第二小学校長

新職員紹介

4月より2名の職員が採用になりました。南部町の福祉の向上に貢献できるよう努力して参りますので、よろしくお願い致します。

相談支援員　吉元　良

福祉活動専門員　仙田　慎介

平成27年度事業計画

今年度、南部町から社協が委託を受け「生活困窮者自立支援事業」を実施することとなりました。今まで進めてきた地域のニーズ発見や相談・支援体制の仕組みづくり、住民参加による地域のネットワークづくりを更にすすめ、特に制度の狭間にある生活課題や既存の制度・公的サービスにつながらない人々に対して、住民の支え合い活動や地域の関係者、資源等をつなぎ、自立した地域生活を送ることができるような取り組みを行います。

そのために、「あいのわ支え合い講座」やいきいきサロン活動支援などを通じ、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けられるよう、在宅生活を支援する地域での福祉活動に参加できる人材の発掘や養成を継続して行います。

また、関係者と協力しながら集落ごとの「福祉座談会」などを開催し、地域ごとでの課題や住民の声を聞く場を作ります。その中で、新しい「あいのわ銀行」制度や社会福祉協議会への理解を深めていただき、集落の福祉力を高めていくための支援や、「南部町地域福祉計画」が実行性を持つために何が必要なのか、関係者と協議しながら「活動計画」づくりに取り組みます。更に「災害ボランティアセンター活動マニュアル」の徹底をはかり、関係者と連携した模擬訓練を実施していきます。

収支予算

（単位：円）

収入

会費収入	3,762,000
寄付金収入	2,734,000
補助金収入	37,279,000
助成金収入	844,000
受託金収入	17,689,000
事業収入	1,995,000
貸付事業等収入	100,000
共同募金助成金収入	979,000
雑収入	472,000
受取利息配当金収入	20,000
収入合計	65,874,000

支出

人件費支出	45,359,000
事業費支出	5,268,000
事務費支出	10,272,000
貸付事業等支出	200,000
助成金支出	4,464,000
負担金支出	31,000
固定資産取得支出	280,000
支出合計	65,874,000

助成金が使えます!

わが町支え愛活動支援事業

わが町支え愛活動支援事業とは…。

地域で支援を必要とする人の情報などをまとめた**「支え愛マップ」**を住民が主体となって作成し、明らかになった支援課題から災害時の避難支援の体制整備や、平常時からの見守り体制・支え愛活動の定着を進める事業。

町内28集落実施完了しました（平成27年3月末）

平成24年度～26年度実施集落

平成24年度	平成25年度	平成26年度
・東西町一区	・原	・倭
・東西町二区	・西	・法勝寺五区
・東西町三区	・口絹屋	・徳長
・東西町四区	・法勝寺七区	・江原
・谷川	・馬場	
・金山	・武信	
・金ケ崎	・馬場住宅	
・宮前一	・今長	
・円山	・二桝	
・金田	・能竹	
・市山	・笹畑	
・御内谷	・大木屋	

どんなことをするの?

◎自治体などの住民組織が主体となって「支え愛マップ」を作成しましょう。

⇩

マップを作成して行く過程の中で地域の様々な気づきを発見!

◎作成した支え愛マップをもとに避難訓練をしてみましょう。

⇩

避難訓練により集落内の問題を知り理解し深める。など

どんなことに使えますか?

◎避難支援や避難所整備のためにリヤカー、車いす、拡声器、避難案内板、防災倉庫、発電機など必要な物品の購入

◎研修会、講習会の講師に払う謝金

◎避難訓練のための損害保険加入

◎研修会、講習会の会場代など

◎平成27年度南部町の場合、10集落の予算が組まれています。
◎限度額は、1集落10万円で県と町が1／2ずつ補助します。

あなたの集落でも
「いざという時のために」
「困ったときにはお互いさま!と集落のつながりを深めるために」取り組んでみませんか!

徳長区の取り組み

私たち徳長区は、法勝寺中学校から直線距離で約1㎞程度山あいに入った所にあり17戸・人口58名（内後期高齢者12名）・高齢化率33%の集落です。

毎年春と秋に消火訓練兼避難訓練を行っていましたが、災害発生時の被災者救助や自力では避難が困難と思われる人を支援する準備が出来ていないことに気が付きました。集落としてこの課題を検討をしている中で、この事業を活用すれば救助や避難支援に必要な用具等を購入することが出来ることが分かり、早速社会福祉協議会に具体的な相談をして、平成26年度の支援事業を活用させて頂くことが出来ました。

それ以降に集落として行ったことは、

1. 区の委員にて災害図上訓練と支え愛マップの作成
2. 支援事業にて購入した各種用具を使って昨年11月に災害救助訓練の実施
3. 今年初めに全戸に避難袋の配布
4. 4月に防災地図兼支え愛マップの定期見直し
5. 4月に定期避難訓練と消火訓練の実施を行っています。

毎年同じようなことを行っていますが、集落の皆さんの防災と支え愛の意識が少しずつ高まっていると感じています。継続は力なりです。

平成27年4月から、生活困窮者支援制度が始まりました

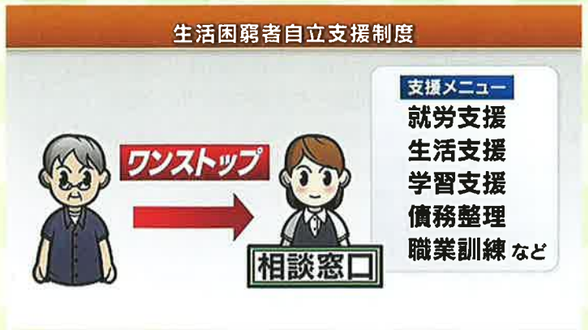
4月から生活困窮者自立支援法が施行されました。この法律によって、福祉事務所のあるすべての自治体が、生活困窮者に対する自立支援に取り組んでいくことになりました。

今日、貧困が支え合いやがんばりにつながるのではなく、逆に孤立やあきらめを生み、そのためにますます貧困から脱却できなくなるという悪循環が見られます。

例えば、急に家族の介護が必要になり、所得が減り、自分自身もストレスで参ってしまう。このように複数の要因が連鎖すると、だれでも生活困窮につながる可能性があります。ところがこれまでは、生活が著しく困窮したときに頼ることができる制度は、生活保護しかありませんでした。生活保護は最低生活保障のためのたいへん大事な制度ですが、そこには困窮から脱却していくことを支援する仕組みはありません。

生活困窮者自立支援法は、生活保護の手前に、もう一つのセーフティネットを張ろうとするものです。

相談支援の窓口では、一人一人の事情に合った総合的な支援計画を作成します。障害、雇用、介護など、既存の縦割りの制度を連携させた支援や、地域の活動などとつなげた支援も期待されています。



南部町では4月に相談窓口として、**「生活サポートセンターなんぶ」**が南部町社会福祉協議会内に設置されました。

専門の相談員が相談者のお困りごとについて聞き取りを行い、自立に向けた支援を行っていきます。

生活が苦しい

失業してしまった

家賃やローンが払えない

ニート、ひきこもり

家族に問題がある

家計のやりくりに困っている

ご本人・ご家族・親戚・知人どなたからの相談でも受付いたします

お困りごとがあれば、ひとりで抱えこまずに、お気軽にご相談ください。
「生活サポートセンターなんぶ」では、相談員があなたと一緒に考え、解決へのお手伝いをします。

相談の流れ

1. 相談窓口へご連絡ください。何らかの理由で窓口にお越しいただけない場合は、ご自宅に訪問させていただきます
2. お困りや不安をお聞かせ下さい。ご家族やまわりの方からのご相談でも構いません。*秘密は守ります
3. ご相談者の意思を確認し、自立に向けた支援を一緒に考え、あなただけの支援プランを作成しながら解決へのお手伝いをします
4. お困りごとが解決後、アフターフォローもしていきます。
支援終了後も生活状況を確認し、安定した生活が維持できているか、支援員がフォローアップしていきます

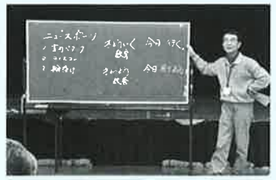
≪相談日≫月曜日～金曜日　9:00～17:00　≪お休み≫土曜日・日曜日・祝日　年末年始
≪住　所≫〒683-0351　南部町法勝寺331－1　南部町総合福祉センターしあわせ内
≪お問い合わせ先≫生活サポートセンターなんぶ（南部町社会福祉協議会内）
☎0859－66－2900　FAX0859－66－2901

あいのわ支え合い講座

住み慣れた地域でいつまでも健康に暮らすために、ボランティアで地域でできる活動に参加していただける方を発掘・養成することを目的として、「あいのわ支え合い講座」（定員 20 名）を開催しました。

日程	テーマ	内 容
1日目	サービス利用者を理解しよう	高齢者や障がい者の特性を知り、特に認知症の症状と対応、感染症予防等について理解する。
2日目	レクリエーションを体験しよう	いきいきサロン等で活用できるレクリエーションを体験する。
3日目	福祉制度・サービス・活動を知ろう	現行の制度やサービス、地域の福祉活動の実際を理解する。
4日目	介護の基礎を理解しよう	「家事援助と自立支援」「安全な移乗・移動介助」「緊急時の対応」など在宅支援に必要な介助や介護の基礎を理解する。
5日目	これからの活動に活かそう	学んだことを地域で活かすための活動の場や方法、改定予定の「あいのわ銀行」の内容について理解する。

20 時間の全講習受講者 10 名の方には南部町より 4 級ヘルパー認定証が授与されました。あいのわ銀行協力会員の研修としてまた地域で支え合う活動が活発になるよう今後も年 2 回実施を予定しています。町内在住者のどなたでも受講できますので、次回の開催が決定したらご案内したいと思います。



記入例

※日付等記入の上、ボランティア実施先にてスタンプまたは押印してもらって下さい。

《活動の記録》	
日時	2015 年 3 月 9 日（月）（14 時 00 分～ 15 時 00 分）
利用会員氏名	南部 太郎
サービス内容	生活必需品の買い物
確認印欄	

あいのわいきいき手帳にボランティア活動の実績を記載しよう !!

平成 8 年にあいのわ銀行がスタートして、今まで（平成 27 年 3 月 31 日）貯めていただいた預託点数、記録点数を精算。平成 27 年 7 月からは協力会員、記録会員に「あいのわいきいき手帳」を配布し、活動内容を手帳に記載いただくことになりました。

- 中学生以上の南部町民の希望者全てを配布対象とします。
- 生活支援サービス（預託活動）あいのわいきいきボランティア（記録活動）の両方の活動を記載できます。
- １年ごとに精算するため（預託は貯めておくことも可能）１年で区切り、手帳は切り替えとなります。

平成二十七年度

「地域福祉委員連絡会」開催

四月二十五日（土）、プラザ西伯を会場に「地域福祉委員連絡会」を開催、地域福祉委員六十五名の方にご参加いただきました。

主に、今年度の社会福祉協議会の事業計画について、あいのわ銀行改正について、地域福祉委員の活動や事業説明を行いました。

また、今年度は、民生児童委員の方にも参加いただき、全体会の後には地区ごとの懇談会を行いました。日頃つながりがもてないと感じておられた委員も「よいきっかけづくりが出来た。」とこれからの連携に繋がったようでした。

地域福祉委員は、日頃の生活の中で目配り役として集落の方の見守り、声かけ、また集落内の福祉問題を発見し、その問題解決のために相談支援を行ったり、社協や区長、民生児童委員、行政等との連絡をする役割を担っていただきます。

皆様も日頃の生活の中でお困りごと等がありましたら、集落の地域福祉委員にご相談してみてください。

今年度、新任されました地域福祉委員を紹介します。

任期　平成二十七年四月一日～平成二十八年三月三十一日

東西町四区　橋本美穂子　猪小路　作野　直
鍋倉　藤原　恭子　戸構団地　遠藤　次恵
福頼　荊尾　裕子　馬場住宅　藤井　菊江
宮前二区　新井　祥美　市山　岡田　昭博
金田　景山　淳夫　御内谷　精山はま子
鶴田　野口奈都美

（敬称略）

子育て支援事業

〝ハイとげんきに手をあげよう。〟

今年度、子育て支援事業の一環として、町内の小学校に入学された七十八名の児童に、鉛筆1ダース・消しゴム1個のセットと激励メッセージを添えてお祝いの気持ちとして贈りました。

この事業は、皆様から募金いただいた「赤い羽根共同募金」を財源とし、赤い羽根共同募金を身近に感じ、協力いただいている募金活動が、地域の子育て支援に役立つ募金であることを皆さんに知っていただけるきっかけとなればと思います。

赤い羽根共同募金

ありがとうございました

（平成 27 年 2 月 16 日～平成 27 年 5 月 31 日受付）

頂戴しました寄附金は、なんでも相談所開設経費・いきいきサロン活動助成金・地域振興協議会ふれあい部（福祉部）助成金・福祉バス維持経費など地域の福祉活動の財源として活用させていただいています。

香典返し

（敬称は省略させていただきました。）

寄附者名	集落名	故人名	金額
濱本陽子	落合下	美榮子	金一封
桑名尚人	坂根	理嘉	金一封
平山泰政	天万2番組	仲田末廣	金一封
持永典浩	西	幸次	金一封
山中節男	市山	英子	30,000円
土江一史	東西町3区	昭正	金一封
山口近男	奥絹屋	恒子	金一封
福岡延知	賀祥	利子	金一封
東谷直	東西町3区	絹子	金一封
赤井裕	朝金	鹿代	金一封
遠藤貞代	江原	徹	金一封
川上広志	上阿賀	清紀	金一封
杉谷早苗	東西町1区	堀部和枝	金一封
矢田博一	円山	チエ子	30,000円
長谷川豊	東西町２区	寿恵子	金一封
岩田豊明	諸木	豊	金一封
宮倉英二	境	百合子	金一封
古澤充枝	東西町３区	厚	金一封
松永頼文	三崎	恭昌	金一封
冨永教文	三崎	玲子	金一封
岩田純一	東西町4区	きよの	金一封
細田学志	縄平	一明	金一封
竹内清憲	法勝寺１区	祐二	金一封

寄附者名	集落名	故人名	金額
亀尾栄司	坂根	孝	金一封
内田八重子	円山	豊野	金一封
折戸弘恵	東西町4区	弘	金一封
天野学	境	恵子	金一封
成田哲郎	原	朔朗	20,000円
加藤均	諸木	節江	金一封
牧野慎也	馬佐良	永一	50,000円
濱脇孝幸	三本木	ヨシ子	20,000円
押田晴生	井上	克英	金一封
細田唯裕	常清	サズコ	金一封
亀尾寛一	柏尾	快吾郎	金一封
山中文雄	福里	一央	金一封
植田健	柏尾	友枝	金一封
天野勝久	戸構	花江	金一封
岡田章達	高姫	倉代	金一封

見舞い返し

寄附者名	集落名	金額
篠村郁子	朝金	金一封
赤井茂	朝金	金一封
堂園カツエ	宮前1区	金一封
高岡重延	金田	金一封

◎ご寄附の際に、広報紙への掲載を同意された方のみ載せています。
◎寄附金額等の記載につきましては、寄附者ご本人の意思によるものです。

編集後記

健康とはありがたいものである。70才も過ぎ、年齢的には高齢者と呼ばれるようになってきている誰でもが気力さえあればボランティアに参加出来るのである。

半世紀も前の若かりし頃を思い出してみると、もちろん食生活や生活環境も違ってはきているが、考えられないことである。

「こんにちは、弁当を持ってきました」と行けば、「ありがとうございます」と返事が返ってくる。

「お変わりはありませんか」「おかげさまで」なんとも云えないホットな気持ちになれるひとときである。今日も待っていてくださる人の存在は、いつも自分を若く元気にしてくれると何かの本で読んだことがある。まさにその通りである。誰でも年を重ねればお世話になるかも知れないのであるから、出来る限り頑張ろうと自分に言い聞かせる時間をいただけるのである。

（K.E）